

一月の定例法話会

今年の抱負

井村様「春には一人家族が増え忙しくなりますが、健康に気をつけながら過ごしたいと思います」

酒井様「みんな元気で健康に、というのが一番です。家族も増えるので主人にも家事で働いてもらいたい(笑)」

酒井かなさん「赤ちゃんが生まれて、泣いたら慰める」

伊藤様「もう少し頻繁にお寺に足を運んで、勉強を続けたいと思います。また、60歳の時にホノルルマラソンに出場して2位になったことがあるのですが、今年75歳になることを機に、また出場してみようかと思っています」

三枝様「今年一杯に病気を治すつもりで、リハビリを続けたい。一回でも多くお寺に通って来たいです」

三枝奥様「主人に呆れたり、怒ったりしながらも、今日の日まで来れました。今年もいたわり合い、励まし合って頑張っていきたいと思っています」

名桐様「暮れに体調を崩し、中性脂肪が高いと言われたので、今年は健康に気をつけたいと思います」

名桐奥様「ついでにダイエットも」



名桐悠太くん「今年

は宿題をやる」

名桐啓介くん「ぼくはヤせているので、普通に戻りたい」

書けるようになる」

叶家正喬様「世界一の落語家を目指す(笑)。高座での緊張感を持続することの難しさ、それとは逆に自分がふわっと(楽しく)していると、それがお客様に伝播してしまう。落語はメンタルで繊細なものであると改めて思っています」

升家一徳様「中性脂肪とGTP、コ

レステロールなら大看板の私ですが、今年はい意味での『適当』を貫きたい」

武藤様「暮れに大病をして生老病死について改めて考えさせられました。無病息災で一年過ごせればと思います」



恒例の「しんらんさまかるた」でのかるた取り大会

今年優勝は酒井かなさん

長男法弘「以前、即信寺様で修行したとき、いろんな人との出会いが一番の勉強になった。今年もいろんな事や人に出会えたらと。また、少しはお寺のこともやりたいと思います」



次男明弘「まだ大学生なので、テストで合格点を取ることがまず第一。お寺を継ぐ者としての自覚を持って勉強を続けたい」

坊守「母の手助けもあるので

わすれられない



せんせいのごおん

さむい えちこの こだがはま

雪の越後へ流罪となつた親鸞さま



なかのよい しんらんさまと えしんにさま

流罪となられた親鸞さまは、京都から



北陸道を経て、途中舟に乗り、居多ヶ浜(現在の直江津市)に上陸されました。

親鸞さまは、流罪で越後に住まわれるようになって間もなく、恵信尼さまと結婚されました。恵信尼さまは、豪族光喜為則の女といわれ、地方の女性としては教養高く、また聖人を観音さまの化身と仰がれ、お互いに信仰に満ちた敬愛の家庭生活をされました。

北国の春は遅く、未だ肌寒い四月頃でした。親鸞さまが住まわれた「竹の内草庵」は、浜の近く、現在の五智国分寺のあたりだといわれています。

ばれ、僧にあらず俗にあらず、自ら愚禿親鸞と称されて、とても罪人とは思えないほど明るく、越後の冬を過ごされました。

また聖人を観音さまの化身と仰がれ、お互いに信仰に満ちた敬愛の家庭生活をされました。

心に如来を思うとき

